

# 平成28年度 宇治市観光振興計画推進委員会

## 会議録

会議名	平成28年度 宇治市観光振興計画推進委員会	
日時	平成28年4月18日（月） 14時00分～17時00分	
場所	宇治市産業会館3階会議室	
出席者	森 正美	京都文教大学 教授
	門 道夫	公益社団法人 京都府観光連盟専務理事
	神居 文彰	平等院 住職
	北村 善宣	公益社団法人 宇治市観光協会会長
	古賀 則行	平等院表参道商店会 顧問
	佐脇 至	宇治橋通商店街振興組合 理事長
	池本 将孝	宇治源氏タウン銘店会 副会長
	平井 基	京都府山城広域振興局農林商工部 部長
1	開会	
2	委員会の内容 以下の通り。	
	(当 局) <全体スケジュール説明>	
	( 森 ) ありがとうございます。	
	<p>ちょっとだけ大きい所で、まず個別の部会を設けて頂いたと言う事なのですが、27年から先の予定、今年度はどうなるのでしょうか。私も部会に出席していて、まだ始まったばかりという感じなのですが。すいませんがまず先にそこを説明して頂いてよいでしょうか。</p>	
	<p>(当 局) 部会が2つございまして、先ず交通部会になりますが、このゴールデンウィークに臨時駐車場対策を実施する予定でございます。</p> <p>4月29日から5月1日、5月3日から5日までの計6日間を予定しております。実際の中宇治の交通渋滞の状況及び実際の車の動きを見定めてから必要に応じてお願いできればと考えております。</p> <p>サインの委員会につきましては、サインの整備は2020年東京オリンピック、パラリンピック競技大会を目指して整備したいと考えておりまして、今年度も引き続き、議会を開催させて頂き、整備に向けた取り組みを進めさせて頂きたいと考えております。</p>	

( 森 ) はい、分かりました。なので、ここには書いてないのですが、サイン計画についてはガイドラインまでは作ったので、そこから先の課題等について、どの様に実施していくかについては、これから継続して検討するということになるかと思えます。

何かこれについてご質問、ございませんか。

後ほど各部会についてご説明頂きますので、その時に改めて、どういう形で何を継続して行くかについて意見を頂きたいとおもいますので、よろしくお願いたします。

よろしいでしょうか？

東京オリンピック・パラリンピックというのが目標として設定されていますが、ここで観光が終わるわけではないので、例えて良く取り上げておりますが、式年遷宮をピークに据えると終了後は統計的に人数は必ず下がっていきます。

でもその下げ幅をどう下げないようにするかというのが、持続的な観光戦略になりますので、そういう意味でいくとやはり後の 33 年、34 年というのが非常に重要になってきますので、そこに向っていく位置づけになっているということを御理解いただきたいと思えます。よろしいでしょうか？

はいそれではですね、今日は時間が限られておりますので、次第の観光交通対策について入らせていただきます。

それでは事務局から説明をお願いいたします。

(事務局) <説明>

( 森 ) ありがとうございます。内容的にちょっとあまり耳慣れないというか交通量調査や駐車場対策とか気になるのですが、かなりここまで細かい調査はあまり実施されてこなかったもので、今回丁寧に調査して頂いて、それに基づいて議論しました。

最後の 7 ページのところでは少し、駐車場の整備がなされる場合ということで、近隣ではなく周辺部という言葉がイメージとして何か離れた市町村等のイメージを持たれるかもしれないのですが、どちらかという観光地ですので、少し周辺、近隣、あの委員会の中では「フリンジ」という専門用語を使っていたのですが、「歩いて回れる観光圏」があればその周りということなので、あくまで駐車場から歩いて主たる観光施設に行けるというような距離感のイメージです。

周辺部と言ってしまうと、結局「パーク&ライド」と誤解されやすく、日本語的に距離が明示しにくいのですが、車を停めてから抵抗なく歩ける距離の中にとイメージになります。

ちょっとこれだけは言葉のニュアンスとして補足させてください。

何か感想でもいいですし、ご意見でも如何でしょうか。

初めてごらんになる数値等も結構あったと思えます。

(古賀委員) 武田病院の方も駐車場をゴールデンウィーク等開放して頂いているのですが、

宇治橋通り商店街の中程にある都計道路から宇治橋通りに向かっての一方通行を逆一方通行にできれば、観光客や住人の方も無駄な渋滞に巻き込まれずに、逃げる道があつていいなと思います。

いつも思うのですが、宇治橋通りは突っ込んでしまうと逃げ道がないというか、もう最後まで行かないと仕方がないということになるので・・・。

( 森 ) どうなのでしょう？あそこはそもそも物理的に直角すぎて曲がれないですし、たぶん曲がれるようにすると、抜け道となつてしまいそのエリアの方たちが逆に困られるのではないかと思います。

(佐脇委員) こういう議論する時にその意見は度々出ますが、お話の道は物理的に曲がる事が無理で、よく一緒に出る話が、もう一つ東側にある斜めの抜け道を逆にできないかということも、何回かあつたと思うのですが。

( 森 ) ですので、今頂いたご意見が具体的に実現可能なのか、実現した方が良いのかどうか検討はされてないのですが、事務局の説明でもあつたように西詰交差点が課題で、先ほどの資料ではピークの日が平日の 8 倍 9 倍で、12 時から 14 時の時間帯には平日の 15 倍となっているという状態なので、今後の部会のスケジュールとも関係すると思うのですが、宇治橋通りの交通状況というのをもう少し精緻に調査しないと本当に通過交通なのか、あるいは例えば宇治橋通りの途中で曲がってくださいと誘導した時、本当はその間に用事があるということがあつたりもするので、そのあたりの実態が把握できていないという問題があつて、あとそれと当然ですけど、再三強調されていたように近隣住民の意見と言う事をヒアリングする機会もなかつたので、特に渋滞関連のデータとしてはその部分が少し不足しているのではないかと思います。

(佐脇委員) あの、根本的に今言われたように流入する手前でどう分けるかという事の方が重要だと思います。

( 森 ) なので、今回一定効果があつたと言う風に看板で評価されているのは、南門の前の大きな駐車場が一杯になつた時、特に縣通りに車が流入をしないように宇治橋通りでここから先渋滞していますよという標識を出すことによって、そこから都計道路の方に車を出して頂いて西詰交差点の右折を抑制するという事は看板や標識などで一定の効果を上げたというがあり、それが出来たのは逆に言えばその縣通り、お店が無いとは言えないけど、そこにいらっしゃる方よりも多分他府県ナンバーでそこに流入される方の多くは平等院を目指されるのだろうという仮説のもとに誘導が出来たのですが、商店街の場合は非常にそこが断定しにくいという状況が実際にありますので、そこはデータがなく議論が今はできないかなということです。

(神居住職) 森先生が指摘したようにフリンジの定義の問題、周遊観光と言うことの定義の問題によって実際のアクションプランに大きく関わってくると思うのです。

今言いましたように、観光の中心というのが平等院のあたりなのか宇治上さんなのか、あと将来的に今後出てくるものなのか、また萬福寺も含めてきたものか、いう事や周辺というのが、いま話が出た宇治橋通りから離れた周辺なのかによって駐車場の位置とか誘導の仕方が変わってきます。実際、1日1万5千から2万の人がここに集中している事は間違いないので、楽しく歩いてもらえるルートにするのでしたら、そもそも車と言うのは遠隔地に置くべきではないとか、京都のように歩いて楽しい場所が点在していて、そういった面的な広がりが出るんだったら2%しかないパークライドが実際宇治にとって普通になる場合もあるかも知れないし、そうでない事もあるということで、この部分が肝ではないかと言う気がします。

ちなみに観光対策については具体的な議論とあと、アクションプランの中に入れることをしないと進まないですね。古賀さんの言われた事もそうですし。

( 森 ) ありがとうございます。先ほど事務局の方からもこの観光振興計画でぜひ総合的に議論してもらいたいという点があったと思うのですが、神居先生からおっしゃって頂いた点は本当に重要ですし、私が冒頭に申し上げた、「観光の質の向上」という観点から、もしかしたら最もいま宇治の観光の中で遅れている部分かも知れないなあと正直危機感を持っていますので、結局何をして頂くのか、どんな体験を提供するのか、それがどこでできるのかという事をちゃんとストーリーと合わせて丁寧に検討していけば、観光像というのがどういう形になるかというのが見えてくるのかなと思いますので、ちょっとこれはもう少し交通政策だけではなくて全体で議論をさせていただければなあという風に思います。

ですので、今日の話はあと最後に説明をさせて頂く観光動向調査にすごく関わってきます。つまり観光動向調査の中で観光客の皆さんや観光にまだ訪れていないけども将来の観光客になって頂くような広い範囲の方々にご意見をうかがっていかうと思っていますので、そういう時にどういう事を私達が知ることができれば、何が考えられるかという事をちょっと考えつつ、話を聞いていただければと思います。いかがでしょうか交通対策について他にはご質問とご意見とかありますか？大丈夫でしょうか？

では次の議題に行かせていただきます。観光案内サインの整備ガイドラインについてということで次第4でございますけども、こちらは柯課長からよろしく願いたします。

(当 局) <観光案内サインについての説明>

( 森 ) はい、ありがとうございます。基本的な考え方からですね、具体的なデザインそれから物を作った後にどういうメンテナンスしていくのかに辺りについてのガイドラインを昨年度1年かけて議論を進めて頂いた報告です。

非常にコンサルさんが頑張っていたいて、かなり広いエリア、黄檗のエリアを含めて現存のサインがどうなってるのかという現状について、きょうはちょっと

詳細すぎて、あとちょっと私見の問題もあって、この委員会では提示させていただいてないんですけども、かなり細かい調査して頂きました。なのでそういったものを含めて今後どういうところをどういう風に直していくのかというプラン作りをしていくというになるかなあとと思います。はい、如何でしょうか？何か質問とか感想とか。はいどうぞ。

(門委員) すいません、観光連盟です。よく調査もされてるなと思うんですけども、ちょっと当てはまるかどうか分からないんですけども、京都府の中で例えば海の京都とか森の京都とかいま進めてる、あるいは進めようとしている部分ありますけど、ご承知のようにやっぱり一つの市の中だけで観光客が留まれるわけではありませんので、そういう意味では例えば宮津市天橋立だけじゃなしに、もうちょっとその周辺ですね、京丹後とかそちらの方へも行かれるんやという前提で、広域観光という目でお客さんが観光客の人が行かれるという前提でやっていますので、そうなった場合に海の京都もそうなんですけど、7つの市や町少なくとも京丹後宮津とか舞鶴とかですけれども共通したものにしようというそういう考え方で進めているんですけども、そういう意味でこれ宇治市さんですけども、例えばお隣行ったときにちょっと全く違う表示、お隣の城陽とか京都市の伏見ですね、そこへ行くと全く違ったものになると、ちょっと分かりにくいなと思いますので、ある程度は共通性があるのかなという、ちょっとそのあたりを調整がされているのか分からないんですけど、見方も必要かなということを思います。あのその表記方法も京都市内でしたらキンカクジ・テンプルとなってるんですね。これもたぶん同じような感じになるかなと思うのですが、あれも言い方がありますね、キンカク・テンプルという書きかたもあるんでしょうし、ちょっとそのあたりも周辺との近隣と言うんですけども、ちょっとそのあたりの統一性というのも頭の隅に置く必要があるのかというようには思いました。

( 森 ) ありがとうございます。先ほどちょっと事務局の方で1枚のA4のところ、どういう風に検討してきたかというのをまとめていただいたところで最後のところに日本遺産のサインのデザインについてというのがあったんですけども、お茶の京都の「香り回廊整備計画」自体が昨年度出来てますので、それに基づいてそこは一応デザインガイドラインが入っているものなので、それを参照しながら一応議論は進めさせてはいただきました。で、しかしながら平井さんに補足して頂いたらいいのか、いきなりそんなことぐらいやったら詳しくなってしまうか、ちょっと難しい所ではあるんですけど、そのサインの整備計画の委員会の中には振興局の方も入っていただいて、そういった周辺とのですね、関係性をどういう風に担保していくのかということについては一定議論させていただいたところ、ただ、なのでここでデザインガイドラインの中で示しているもので含まれていないものは今おっしゃっていただいたようなその周辺への誘導をかけるような、ある意味での広域の誘導サインといったものについてはこの中にはいま

含めていません。なので、例えばそれこそ京都府さんとか国交省とか道路管理者の皆さんと少し調整していかいと知れないのですけれども、そういう所にある道路標識をどうするんだということについてとかですね、そのあたりは府の方ではどういう風に、むしろ逆に自治体と調整されていく段取りになっているのかが教えて頂ければ逆にこのタイミングでというのかまたできるのかなと思いますけど。

(門委員) あの北の、海の方は共通の案内板にしようということやってきてるんですけどね、その中では道路関係でしたら府道もあれば国の道路もありますよね、例えば国土交通省とかも一緒に入ってもらって、できること、できないことがあるようですので、その中でお金の面もありますので、国土交通省も観光庁も国土交通省ですしね、そういう意味でいったら国の方がお金を負担してやってくると、というところもあるようです。こういうものは国道には設置できませんよといわれると、いくらデザインしても受け入れてもらえませんので、ちょっとそこの調整がいるのかなあというような、

( 森 ) それ、だから私が申し上げてる広域標識の問題ですね？

(門委員) そうですね。

( 森 ) 内部の周遊性と関わってということとは少し違ってということですね、

(門委員) そうですね。

( 森 ) ですよね、そこはでも平井局長、お茶の京都とかで調整していかれる

(平井委員) そうですね、これからの

( 森 ) はい、ありがとうございます、やっぱりそれはすごく重要で、京都府南部のある意味で観光の玄関口になっている宇治市としてはそういう意味では実際ここに出てきているデザインなんかも宇治市が持ってるデザインということに今後なりますので、使っていただくなら広く使っていただいたらいいんじゃないかというふうにむしろ思ってるぐらいだと思うんですけど、そういう意見も実際委員会の中で出ていましたので、ただ、景観上、宇治市の場合は町場の景観なんですけど、非常に農村景観であったりとか色の馴染みにしても、香り回廊とかも一つの色ではなくて複数の色が提示されていてそれは背景景観に合わせて同じ色だからいいということではなくて、馴染むかということを考える時に統一されてるから分かりやすいのかと言われると逆にそれが景観を壊してしまうということもあるので、たぶん北部の場合景観と言う事が文化的景観としてあまり縛りが無いんだと思うんですけど、宇治市の場合もそうですし、京都の場合も文化的景観という一つの大きな枠組みがありますので、景観を損ねるようなものであれば統一していてもむしろNGでこだわる違うロジック、理論が必要なのかなあと思います。他いかがでしょうか？どうぞ。

(神居住職) あの今の意見にも **nearly** なんですけど、道路標識の問題、電柱についてる看板や道路標識の表示等々の整合とはいずれできてくると思うので、これはもう努

力していくしかないかなあと思うんですが、実は宇治市さんの中で今回の観光案内サイン、私どもも委員会に出しておりますので、大体意見は聞いてるんですが、実はこういった観光に非常に近くてなかなか統一、この中にも入っていないんですが、例えば名木百選の看板であるとか、あと各社寺の中に置いてくださるような、ああいった文化財の説明板等々も違う課でそれぞれ進んで、全く違うアルミの駒札があったりとかこっちにありますよというサインなんかでもそうですし、できれば観光に **nearly** な部分では統一的なデザインの中で横の連携の中で考えて頂ければきつともっとうまくいくんじゃないかなと思います。社寺のそれぞれ説明板、名木百選、その他ですね。あと言われたようにそれぞれここから、じゃあ一休寺さんとか、または南山城とかに行く非常に一体的な南山城全域に関する観光案内サインということも視野に入れて入れる必要があるなあという思いはあります。それから、もう一点、ちょっとお聞きしておきたいのが、サインのメンテナンスのことなんですね、というのは私どもも非常に困ってしまうことは宇治市のたとえば指定を受けている文化財等もあります。それらが独自で看板とかを設置してくださったことがあるのです。が、それらが正直いつか早い時期に老朽化というか色が変わったりしてしまうこともあります。それを新しいものにするには非常に大変なんですけど、こういったサインを、先ほども出ていますけども監視委員が出るということですがどのくらいのメンテナンスのスパンで考えてるんですか？正直お金のいわゆる裏付けとかも含めて。

( 森 ) はい、最後の58ページのところですよね。前半の部分はたぶんこの宇治市の観光案内サイン整備ガイドラインと言う形に一定まとめさせていただきましたものを庁内いかに横の横断的などところで共有して使っていただくか、それから先ほどのお話しではないんですが、府市連携のような自治体の枠を超えて共有していただくかと言う、たぶんそのあたりだと思うんですね、メンテナンスの部分とか、それからそれは多分台帳管理とかの細かいプランとかも出されているのは、今回実は調査をしていて設置者が分からないですね。そういうものがたくさん実はあって、文化財的に無主物じゃないんですけど、無主物化してしまっているというものが実はあって、そうするとメンテナンスどころではないので、なので58ページの所が入ってるわけですけども、たぶん今おっしゃっていただいた点について非常に重大な懸念がやはり委員会の中でも表明されて、作るのはいいいんだけどもメンテナンスをしなければ意味がないじゃないかと、でただそこで出てきた意見としては、今まあ行政の方に事務局でお尋ねをされたと思うんですけど、行政だけではたぶんやり切れないので、と言う意見も非常に強く出ていて、何かそれに代わる仕組みを考えないといけないじゃないかという所までここに書き込まれているんです。それ以上はまだ、どうなんですか？これから、部長うなずいているからちょうど振ります。

(当 局) メンテナンスの問題は、行政にとって非常に重要な問題と言う事を理解している

のですが、皆さんが普段見ている公共施設はメンテナンスが出来ていないと言う状況を目にされるかと思えます。

サインについては皆さんが行かれる施設に比べれば、早く老朽化したり傷んだりすると思えますので、このサインの整備を進める一つの大きな考え方として、どうメンテナンスしていくかという考え方は大きな肝になってきます。

その事を意識してこの委員会では議論頂いていたという風に意識をしておりますし、我々も具体的にはこれからどう予算を確保していくかと言う事になってくるのですが、これはメンテナンスの周期を早めるようなことを獲得していく事も事務局の責任でもございますので精一杯頑張っていきたいと思っております。

また、一つご示唆を頂いた役所だけではできない事もあると思うのですが、普段からお近くの方にチェックをして頂いて、連絡を頂く様な仕組みを作っていく必要があるのではないかと言う事もお話を頂いて、このガイドラインの中には書いて頂いていると言う事です。

最後に、順番が逆になって申し訳ございませんが、市役所の中での連携と言う部分で、今後の公共的なサインで例として挙げられた銘木百選の説明版等、同じイメージで見て頂かないと、観光客の方が近寄られないと言う事もありますので、それはまず市役所の中で統一をがんばっていくと言う事と、このガイドラインをもって、近隣のサインの設置主体にも事務局が働きかけていくと言う事で考えているところであります。

( 森 ) ありがとうございます。ご指摘いただいた部分はごもっともです、これから考えますということなんですけど、ただ、議論してきた中で、盤面の更新をどれにするかとかですね、どれぐらいコストがかかるだとか、どれぐらい何年持つんだとか、どの素材でやったら何年だとか屋外の物とか含み劣化が激しいので、それどうするんだという議論で、部長が言っていたように宇治市公共“サイド”整備ガイドラインだというみたいに考えていただくということなんだと思うんですけど、つまり観光宇治と言うからには、そここのところをそれこそ早急に関係、いっぱい看板出しそうなところ公園緑地課とか施設課とか、思いっただけでもすぐいくつかあるんですけど、そういうところからでも知ってるはずやろうでは届かないので、やっぱり庁内で研修会とかしていただいて、調整して頂く中でたぶんそういう所とも調整して頂くことになると思えますので、よろしく願います。はい、

(神居住職) あの、足元の、例えば石畳であるとかそれこそマンホールのデザインであるとか、そういう所にも関係するような気がします。や、なぜ僕お聞きしたかというのは整備効果の検証ということがあるので、そうなるやっばりある早い時期に予算がつくのかなあという期待があったんです。

( 森 ) これは書いたからにはつくんですよ。

(神 居) やめたほうがいいのか、こういうデザインに一挙に変えようとか。



( 森 ) まあ、たぶん私この部会、振興計画推進委員会の中にあつたので、一緒にやらせていただいたのですが、さきの交通政策の部会もそうなんですけど、このサインの部会も先ほど説明があつたようにスケジュールの話にあつたように、28年度も継続してやるということなので、こういうところにはむしろ重点的に予算を付けるべきだとか、あるいはその実施計画を作るのと一緒に合わせてこのメンテナンスの組織運営の原案をつくるべきだとか、たぶんもうちょっと具体的に議論は今年度できるのではないかなあと思います。ただ、その形が見えないと確かに予算取りが出来ないというのも分かりますので、はい。ということですね、ちょっと普通だったらそれが具体的にどういうものか分かってからガイドラインの話になるのかも知れないですけども。重要だということまでしか時間が行かなかつたので、こういう形になってます。はい、いいでしょうか？如何でしょうか。大丈夫でしょうか？(55:54)

はい、では次に行きたいと思います。一つが終わってなかなかすべてが今日メインなテーマになっているので、次第の5ですね。アクションプランの進捗状況についてということで、今日の一番厚い資料です。宇治市観光振興計画の宇治茶に染める観光街づくりの総括資料ですね。ありますか、大丈夫でしょうか？ではこちらの方を説明頂けますでしょうか？

(当 局) <観光振興計画総括の資料説明> (1:30 : 05)

( 森 ) ありがとうございます。非常に多岐にわたる取り組みでアクションプランとしてこれだけやるんだという風に言ったのはいいですが、ほんとにやっていると量が増えていくんだなあということなんですけど、いかがでしょうか、どこからでも結構なんですけども何か質問とか気になったところとかご意見とか、ハイどうぞ。

(平井局長) ちょっと、先ほどの駐車場の話と関連するので、ちょっと説明がなかつたので、状況だけ教えていただきたいんですけども、市役所の駐車場の無料開放ですとか武田病院の駐車場にたいしてどのぐらいの利用があつて、どのような効果があつたのかちょっと教えていただければ。

( 森 ) 数字ですか？

(平井局長) はい

( 森 ) 振興局にも一回お世話になってますよね。具体的な数字、交通政策いま持ってますか、では回答してもらいます。なければ探している間にほかの質問を受けます。いいですか、ちょっと後で回答してもらいます。いけますか。嶋本課長お願いします。

(当 局) 27年のシルバーウィークの臨時駐車場対策といたしましては、19、20、21、22、23日の5日間の宇治武田病院第3駐車場での数でございますが、100台が最大になるのですが、19日が70台、20日が60台、21日が90台、22日が100台の満車になりまして、市役所の駐車場に誘導しております。

23日につきましては30台となり、19日と23日については誘導しておりません。

併せまして、振興局様にお世話になりました20、21、22日の3日間につきましては、20日が10台、21日が40台、22日が50台程度となります。

市役所につきましては、20日が40台、22日が60台程度となっております。

秋の11月の3連休、宇治武田病院第3駐車場につきましては、誘導を行いまして、21日が70台、22日が10時頃から誘導を開始しまして100台程度で満車となっております。

23日が、10時半頃から誘導を開始しまして、30台と言う形となっております。

市役所の方は、21、22、23日の三日間で、22日だけ10時半頃から誘導を行いまして、120台程度となっております。

(森) これはあくまでも最大駐車数の瞬間観測です。つまり出たり入ったりした数が延べでどれだけあったかというのではないので、一応仮説として例えば100台だけでも、その出たら入ってきてみたい細かいところまでは押さえられなくてですね、最大入ったときにどれくらい埋まったかということなのです。一応それは、なので実際それよりも多い、少ないことはない。それでよろしかったですか？

(嶋本課長) <はい>

(森) なので、一応この数があって、周辺にある駐車場の、周辺というか先ほどの表現でいう近隣にあるものからあふれてこういう駐車場に入って一定そこで最終的に市役所の駐車場までを使うことで何とかなってるようだという事ですね。あるいはどこかで待っていてまた最終的にあいたところへ入っていただいているという、その辺がまた悩ましくて、空いたら入るということは、観光地の滞留時間が長くないということでもあるので、一方でそれはパークアンドライドとあまりマッチングが高くないということとも関連しているんですけど、つまり京都というのは一つの大きな京都テーマパークだと考えると、京都の外に止めて京都に一回入ったら一日京都の中で回れる。宇治は一日この中で回れるかということ、そうではないので、来た人が3時間ぐらいたったら出ていく、3時間後に来た人はまたあいた所に入れるという、ちょっと動きのなところが動的な数字まではわかりません、これ市役所の職員がまめにカウントして地道なデータ集めてるものなので、お金をかければたぶんコンサルがやってくれると思うんですけど、なかなかそこまでは、ハイ。ありがとうございました。いかがでしょうか？他に全然違う観点から

(神居住職) よろしいですか？大きく追加も入れて6つの柱があると思います。それらが平井さんのご指摘の通り観光対策って交通管理とは大きく関係するのですが、それ以前に一点、教えて確認というか懸念というか、何かというとしてすべてにやはり関係するのが宇治茶と文化遺産世界遺産等々観光資源のことだと思いますが、宇治茶についておたずねしたいのですが、たとえば宇治茶についてですがほんとに

このままでどうかということも含めてなんです。なぜかというと産地として 100ヘクタールなく、休耕地が多い。ですから宇治茶として本当に、ですから日本遺産にしても、日本茶ですよ、今ネットで見てみると「日本茶・世界遺産」で調べると出てくるのは和東の茶畑であったり奈良街道の写真であったりとかする、ですから宇治で日本茶そして構成要素 16 をどれだけ喧伝しても本当に日本茶として世界遺産、日本遺産としてどう宇治茶として活用できているのかというのは、きっと京都市さんや他の市、また京都府やまたは文化庁を含めた連携が今本当に宇治茶としての宇治市が中核となって発展させていくことができるのかということのビジョンとか実際の働きかけ市や府、この市は京都市や和東であったりとか京都府であったりとか、文化庁であったりとかそういったことはどの程度まで進んでいるのかをいうことがちょっとおたずねしたいと思いました。

( 森 ) はい、どなたが答えていただけますか？

(当 局) 宇治茶と言う場合に、所謂宇治の茶師がブレンドをして販売をする宇治茶と、農業としての宇治茶としての二つの側面を持っているものですから、まずは販売と言う面で行きますと、日本遺産は当然ですし、京都府さんが進めて頂いている「お茶の京都」の玄関口、代表として動きをさせて頂くと言うのがまず一つ必要である。もうすでにご一緒にさせて頂いているのですけれども、もう一つ、「農業としてのお茶」の産地としてこれ以上茶園を減らさないと言う取組なんですけれども、宇治市内でとれました碾茶と玉露をブレンドした「碾玉」というものをどの様に販売していくかと言うという事を、生産家と茶商の方々に加わって頂いてワーキンググループで検討を進めているところでございます。

これを切り口として、碾茶若しくは玉露が殆どの生産内容になるのですけれども、それが売れる事で宇治茶全体の販売につながる様に、その事でお茶の京都の玄関口となる様に、日本遺産の代表地となるようにといった連続のストーリーとなる様に考えて、まだちょっと取組途上ですので結果をお知らせする段階にはないのですが、碾玉の方はこのアクションプランの中にも書いておりましたが、少しでも京都・宇治に興味をお持ちの層に飲んでいただくというパブリッシングを始めておりますので、今後の展開に十分注意して進めていきたいと考えております。

(神 居) 今の話を聞くと、宇治茶と宇治のお茶、いわゆる宇治市のお茶やっばりすごいぞということが浸透していく、そしてそれが宇治茶のいわゆるコアなのは宇治市だというストーリーを作っていくにはかなりの努力と作戦が必要かなという風に思いました。

( 森 ) 今言っていたいた宇治茶ブランド宇治市内産宇治茶のブランドの形成については農林茶業課中心にがんばって考えていただいているところなんですけれども、やっぱり観光の文脈とうまく接続しなければならないということがあって、そこも含めて検討を進めてるんですけども、実際にそのここにいらっしゃる例え

ば辻さんとか北村会長、観光協会としてもそうですし、お茶としてもそうなんです、結局宇治茶ブランドの活用戦略のところではいまみたいところで、観光分野から見たときに、もうちょっと宇治茶こうなるべきだとか、もうちょっとみんなで盛り上げてこういうこともうちょっとできるんじゃないかみたいなことをここで少し共有できればもうちょっといいんじゃないかということと、もう一つはお茶の京都という話が出てるんですけど、お茶の京都のプランの中で私も関わっているんだけど関わっていないみたいなのところがあってよくわからないんですけど、DMOの話が出てきて、ディスクネーション・マネージメント・オーガナイゼーションとって観光地を地元の組織の人々が入ってマネージメントしていく、今全国的に括弧付きですけど、流行ってるんですけど、観光庁が非常に力を入れてDMOを広域型地域型といろいろ分けてですね。やりなさいといってるんですけど、一応宇治市もそのDMOに参加していくという話になっていて、そのときに、その宇治茶のプロモーションみたいなものがどういう風に位置づけられているのか、それを誰がどこでアイデアを出して中身が作られていくのかというのが、ちょっとよくまだわからない。まあ多分その前は観光の連絡協議会、会長ですよ、北村会長が会長ですよ。

だからたぶんDMOも多分そういう意味では仕切っていただくことになると思うのですが、せつかなので、その辺の少し情報共有されるとじゃあ宇治市としてその中でこういうことをもっとやっていけばいいんじゃないかということができるんじゃないかなあという風に思うんですけど、和東町さんなんかは規模が小さいので、逆に小規模のメリットが非常に上手に生きているところもあるんだとおもうんですけど、なかなか宇治市の場合農林茶業課と商業観光課に分かれているように、それぞれは考えているんだけど、ギュッと一か所に一つに一体化できにくいところもありますし、それから京都府さんとの関係を考えてみると市が独自に考えている部分と府が考えているところがそれぞれ、すれ違うというところまではいかないんですけど、どこで具体をすり合わせるかの、というのが日本遺産の話も然りなんですけども、動きがたくさんアクティブになればなるほど難しくなってる状況ではあると思うんで、はい、どうですか？お茶のほうから、辻さんのほうに振っていい？

( 辻 ) とにかく観光についてはね北村さんのほうが詳しいかと思うんですけど、私のほうは実は生産のほうに気になります。生産地が結局 60 ヘクタールということで、圧倒的に少ないんですね、じゃあ、碾玉でも作る時に上級のお茶でやりましょうという話になって、やるのはいいけどたくさんのお茶用意できますかっていうたら農家はいきなり黙ってしまうという状況であるというぐあいに簡単に言えば農家が少ないんですね、とても。ですから非常に宇治茶というブランドは世界のブランドかもしれませんが生産量はとても少ない、特に宇治市内においては少ない。ですから宇治市内が少ない、そして宇治市以外に広げて府内全体に

広げても少ないですから、日本全体の生産量の3%ぐらいしかないので、そう考えると非常に少ない。そこをなんとか盛り上げたい気持ちでおるんですけど、私もお茶を売ってますけれども、店舗でお茶を売ってもたいして売り上げには貢献してくれない実は、でどちらかというとお菓子とかね、お茶の10倍くらい収入になりますので、お菓子の中にいかに抹茶を入れるとかいう風な形になってくるのかなあというのが我々の見解ですね。そんなもんですね。

( 森 )　なので、その飲むお茶じゃなくて、この中で行くと8番のスイーツコンテストであるとか新しい名物とか、宇治茶自体の幅を少し広げていくっていうのが茶業者としても実感としてある。まあ、消費者に届くという、

( 辻 )　そうですね、碾玉を売って宇治茶全体の話題性を広めていくという戦略はあるんですけど、じゃあ碾玉はどんぐらいできるのというと、100kgか200kgしかできないという話になってきますので、それじゃどうするか、それをあくまで発信の旗印にするだけで、そこから広げていこうと。実は宇治茶には碾玉以外にも抹茶もあるし、煎茶もあるし、玉露もあるし、こんなお茶もあるんですよというのを進めていって、全体として宇治茶を売って行こうと。で、そういう風にすすめていくというところにしか持っていけない。

( 森 )　ただ、観光と言う文脈を考える時には、いまの形だと消費と言う事なんですけど、観光ってもうちょっと直接消費以前に体験と言う側面がもう少し必要で、たぶんお茶の京都なんかでも、何というんですかね生産景観とかが和東の写真が沢山出てくるというあたりも、それを食べるわけじゃないんだけど、それを見て「わーっお茶飲みたい」となるわけではなくて、たぶんその美しい景色を見たいと思ったり、そこを訪れてみたいと思ったりするので、あのもしかしたら喫茶と言う直接的な口に入れるもの、そのものだけではない、たぶん体験部分というのが、まだ十分に伝わってない、だから太閤堤なんかでの茶摘みの体験ができる茶園を整備しようとかいうのは、やっぱり実際こんど5月1日にね茶業センターで八十八夜の集いありますけど、まへは「そんなんやってたんや」感じやと思うんですけど、最近はまだ2月ぐらいから「今年はいつですか？」という問い合わせがあるっていうんですね。やっぱりそういうのが出来る場所があんまりなくて、一回行ったらまた行きたいという。やっぱり茶摘みやってみたい、すいません、仕事として、これ四一郎さんいないんであれなんですけど、摘み子さんの確保には困ってるんですけど、でもちょっとやってみたいという人は実はすごい一杯いやはるんですね。でも摘み子やりたいかという、「それはちょっと」という、そのギャップがすごいので、もうちょっと体験価値みたいところはもう少し本当に検討しないといけないかなと思うんです。

( 神 居 )　戦略ですね、文脈としてのコンテンツをどうするのか？ということですね。

( 森 )　そうですね。どうですかDMの話は触れにくかったら別にそこはいいですけど、全体として。

(北村会長) 観光協会としての話ですが、茶業界の話<両方ですよ>思うんですが、今茶業界ではどのお茶を売れば販売にヒットが出るという決め手がないです、実際。しかし、お茶を求めている、おいしいお茶を求めている人が潜在的に海外も含めてすごくおられるということは事実です。だからそれを如何に克服していくかという努力が必要だと思います。だからやはりお茶に携わる販売関係の茶協同組合さんなんかは、もっと従業員さんのそういう教育を徹底してもらい、やはり接客とかその辺をもっと意識を高めてもらい、全体で盛り上げていく。いま平等院さんも非常に境内の中でおいしい本当の日本茶を提供して頂いてますように、非常に活況でございますね。<お茶ってこんなにおいしいのかって聞くと>やはりそれをまず手本に皆がさせていただくぐらいの気持ちで、やはり日本茶と言うとインストラクターとかアドバイザーなど、あぁいった立派な認定制度もありますし、やはり日本のお茶のルーツ、そのへんをきっちり説明できる、そういった人をいっぱい増やしていく、それを次代に受け継いでいく、この努力が一番大切じゃないかなと思っています。だから抹茶は抹茶の良さがある。そしてまた抹茶には茶道文化が一番いろいろと体験できるということもありますが、やはり日本茶で一番おいしいのは日本人に合ったのは煎茶だと思います。日本全国で生産量が一番多いですから、煎茶が一番。生産は分からないから、玉露は難しいです。<それは生産者も分かったはります>難しいところにいまチャレンジしようとしていただいている、それもたいへん大事なことだと思いますけど、そういったことが一番、それとやはりいろんな海外の方にも通用する英語力を高めていく事。

海外の方は、なぜこのお茶を作ったんだという様なルーツとかその辺のところを非常に知りたがりますから、いつ何日に誰が作ったんだと言う様な事を、言える様にしないとイケません。

(神 居) 私、戦略として海外というのは必ず出てくると思いますし、それだという気はしますけどね。あと、ですから宇治茶と言うのがソフトとしてなのかというのが展開となって、ソフトいろいろソフトという言い方はおかしんですけど、宇治に来て宇治茶のランドマーク的なものがいま正直言って無いので、一体どこにいるか分からないというので、たまたま・・・まだ始まってないんですか？

( 森 ) まだ始まってないです。源氏物語ミュージアムでやるということですね。山から下りてきた\_\_?\_\_いま、たぶんいま二つの宇治橋やつ、今やっています。 ? 山で上で、里に下りてくる\_\_?\_\_、でも、そうですね、今の話でいくとマーケットは潜在的にあるんだけど、そこに届けきれないことがお茶にもあって、逆に観光の文脈で言うとじゃそれで「お茶と言えば宇治だと思ってきてみたら、意外とそうでもなかったよね」ってことになってないかということですよ。だからたくさんあったけども、量があるのだけではなくて、たぶんすごいっていうものに出会ったり、あ一分かったという気になっていただいたりする部分で、おっしゃってる従業員教育であるとか多言語対応であるとか、担い手の部分がやは

り間に合っていないんじゃないかという、だからやっぱり「うちのお茶すごいんですよ」と言う前に黙って飲ませてくれて飲んでる横で説明してくれるのがいいですよ。あのたぶんそういうことなんだと思うんですけど、そういった空気感がちょっと今ほんとに宇治にあるのかのかなっていうことなんだと思います。この辺はだから難しいですね、会議所さんが作ってくださった多言語対応のツールとか努力はされてるんですけど、意識の問題なのかそこらへんがほんとに向上は難しいですね。

(神 居) 暴論かもしれないんですけど、ほんとにランドマーク的なものがまともに景観上あるかと言えばなかなかない、ないのであれば例えば源氏物語ミュージアムは源氏物語・宇治茶ミュージアムとか、年から年中こういう事やっていて、ここでおいしいお茶が飲めるというのが一つあっても、で各お店はそれぞれ特徴があるとか。なにかそんな町としてほしいなと言う気がしますけどね。ひとつの案ですけど。

( 森 ) はい、ありがとうございます。他の観点でいかがですか、お茶の話がいま、

(神 居) 放ち鶴飼いというのは、話題を作る上でも観光でも非常に大切だと思うんですが、実際には鶴飼いは年間どれぐらいできてるんですか？

(北村会長) 年間ですか？ 7千人ぐらいですか。＜日数としては？＞天気に左右されますが、右肩上がりです。だいたいまあ1万人ぐらい

( 森 ) 6月の終わりから9月の終わりぐらいまで、7月から変わったんですね、私は行ったことないんですが。夏場のものですね。

(神 居) 話題作りには非常にいいかなと思うんですけども。

( 森 ) というか、なんか本当にこれは初めてだということで、だけでなく、それが連続してこれだけ、授かりものですね、これをどう使うか (38:48)

(古賀委員) あの環境は全然よくないですよ、工事で、島の中でね小屋で、

( 森 ) つぼみが花をつけるように、このままではいけないと思って生存本能が働いているかもしれないので、そうそう、やっぱり危機になるとなんか。そうです、いい環境だと、それは別途研究者の方に検証して頂かないことですね。どうですか商店街の方では、はいどうぞどうぞ。

(佐脇委員) 若干、お茶に関係、名前だけなんでけど過去2年間3商店街でお茶町めぐりという事業をやってくさっきのスタンプラリーとは>いやここには載ってないです<そうですね、私もないなあと思って>京都府さんの補助金と宇治市さんに補助金をいただいてアプリを作りまして、今年の春も実施しまして、今後ですねお茶町巡り会という形で3商店街は年間を通して会議をしていこうという風に考えています。なので、アクションプランの中では情報発信ということで、やはりお茶っていうのは外せないなので、お茶町めぐり、3商店街を巡るということで、そういう名前を本年度新年度28年度は会議体として不定期ですけどやっていこうという風には考えています。

( 森 ) なんかも情報発信の前にできれば周遊性を先ほどどうまわってもらったらいいかという話があったので、そのそもそのアイデア自体を考えてもらうこともあってもいいのかなと思います。つまりお店があるからそこにどう来てもらえるか商店街の方は考えると思うんですけど、店主さんが自分たちは観光事業者なんだという自意識を持っていただくことで、自分の店に来てもらうだけでない誘客ということが初めて発想が生まれる<ようはプランですね>そうです、だから自分の店はここなんだけど、そこに来る前にこういうところ、こういうところも寄ってもらってできたらうちに来てほしいな、ぐらいのそういう心持、悪いんですけど<それはまさにそうなんです>なのであんまり、どうしても商店街のみなさんって情報発信というと特に関係者でない人たちにとっては自分の店の宣伝やろという風に誤解をされてしまうので、どちらかといったら街を楽しんでもらうためのアイデア作りであるとか、さきほどの歩いて廻れる、それこそ駐車場を運営されている方も商店街のメンバーでないかもしれないけども、そういう人たちとも連携をして上手く観光施設まで歩いてもらえるような声掛けをしていく、それをやっていただく上でお店の方が自分のお店の事を知っててやりつつ、それを語られなければ、語られないほど周りの人たちはついてくるんですよ。これ難しいんですけど、どうしても自分の店のために言ってるんやろというそもそも色がついて見られてるんで、そこせっかく商店街の皆さんが主体でやっていただくのであれば、あくまでも宇治の、この地域の周遊性を高めるためにこれはそもそもやっているとことやと思うので、そこを前面に出して頂いた方がもしかしたらいいかなあとは思いますが。そこをちょっとね、この周遊性のところ、先ほどの交通政策の宿題になっていたんですけど、少なすぎますよね。実際にこれ検証もされていないのでね、観光動向調査とか、どういう風に調査していくかなという感じなんですけど、どこに行ったか、平等院というのは聞かなくても分かっているので、それ以外にどういうルートを通ったとか、交通機関使ってなくて歩いてるんで、いわゆる既存のパーソントリップ調査とかは使えないし、少し調べないとほんとにどれぐらいどうしたんかという、お茶の京都とかのクーポン付のパンフレットは有効期限が終わってるんですけど、これって実績値ってどうやって取ってはるんですか？10万部も使ってはるってすごい部数なんですけど、あの、ちょっとその横のスタンプラリーと比べたら悪いんですけど、桁が違うんで<すいませんちょっと具体的な数字はもってないんで>なんかこういうのがたとえばどういう風に数字を押さえてるとか、そのクーポンで参加店でどれだけ使われたとかで、集計をどうしてらっしゃるのが分かるとそういうのにどれぐらい周遊性を仕込めてるかというのが見えてくると思うんですけど、そういうデータ弱いのですかね？あとどうですか？

(池 本) 源氏タウン銘店会の方では 27 年度はスマートフォンでのホームページがあるんですけども、日本語と英語があったんですけど、そこに中国語の繁体語を制作



してすでにアップはされています。三商店街ともそうだと思うんですが、Wi-fiの設置誘導を進めていて最終的に途中うちの商店街で途切れてしまうという難点があるんですけども、一応端から端までは通園と京阪の駿河屋さんの前からずっと真直ぐ行ってもらって宇治上神社と三叉路に分かれてV字になるところと後は亀石さんの興聖寺の付近に関してはWi-fiの設置は上手くいきました。後は28年度は10周年にはなるので、加盟店が非常に少ないので、宇治橋通りさんのような大きいことはできないのですが事業計画というのはこれからで来年度中に何とかするという事しか決まっています。

( 森 ) スマホで発信されて、それこそ効果と言うのはどうなんですか？あるいは商店主さんはどういう風に、こういった事業って整備するんだけど、アクティブに使えているかどうかみたいなのが、意外とギャップとかそうですけど、作ることがゴールになってしまうことがあって、そのへんはどうなんですか？

(池 本) ホームページと各々の各店ホームページ持っている方はリンクはさせるようにさせて、後はそこに継続的に発信をしていく最終計画を持っているんですけど、そこまではできてないのが現状です。

( 森 ) でもけっこう皆さんフェイスブックとかやっててフェイスブックリンクが上手に貼れば、商店主さんたちそれこそアクティブにけっこう動いてる感というのは出せますよね、何かそういうのがテクニカルに考えられれば、英語とか文書ではなくてもフレーズだけでもちょっと入っていると、たぶん全然違うです。

(池 本) それ持ち帰ってまた、商店会で

( 森 ) たぶんそういうことに関する研修とかがやっぱり本当はみんなできたらいいのかなあ

(佐 脇) ちなみに今のね、お茶街に戻りますけど、アプリに関してはメールアドレスを全部もってるので、そこに再度発信をするという形をとっていきたいと思ってます。たとえば情報をメルマガという形でそれをどんどん蓄積させていくとまた違うかな、という風に

( 森 ) なるほどようするに顧客のグループ化というか、まあ一応できる宇治ファンのようなものが少しできるような感じに動こうとしている。他にどうですか古賀さん飛ばしてたんですが、大丈夫ですか？これ以外に何か追加すべき項目とか、もうちょっとこういうのどうだとか、どうです、だから全然、門さん違う宇治市内じゃなくて、全体の広域で見たときにもうちょっと宇治市ここはやった方がいいのではないかと、どうですか？

( 門 ) これで進めていくのも大変やなと思ってたんですけどね

( 森 ) まじめにやっていますよね。やりきれてないんですけど。トイレの開放とか意外とできてないですよ。これ写真、奈良町の写真です。宇治の写真じゃない。でも不足感はあるまいですかね？どうなんですかね。観光客を見ると、どうです協会にそういうなんか観光客の生の声が結構ここに一番くるのではない

でしょうか？

(北村会長) トイレの満足度はそうとう悪いでしょうね。

( 森 ) それは清潔感というか何が足りないですか、数が足りないのか、クオリティが低いのか、所在がわかりにくいのか？そのトイレの満足度がないのにはいくつか要因があるんですけど、あるいはバリアフリーがなされてないとか、どういうクレームが

(北村会長) やはり老朽化してますからね、

( 森 ) 使いたくないという、

(北村会長) それとお掃除は、清潔にするというそれはね、きっちりとなさっていただけてますが、やはり建物自体が<暗いですね>暗いですね。

( 森 ) 危険な、安心安全な感じが

(北村会長) そうですね宇治橋の西詰めのおそことか、宇治神社近く、天ヶ瀬の、塔の島とか。

( 森 ) 確かに怖いですね。

(北村会長) もっと数が少ない。

(神居委員) 観光案内所はJR宇治駅のところしかないんですか？

(北村会長) あれはね、あります。

(神居委員) ごめんなさい、今森先生がお聞きしましたけども逆に観光協会の方では、観光客のアンケートの中で「こんなのがあったらいいなあ」とか、そんなこと来てますか？こんなのがほしかったとか、

(北村会長) ちょっとお待ちください。喜多次長、今一番観光客で要望のおおいは？トップは

(喜多次長) 一番トイレの件が多いですね。

(北村会長) やっぱりね、具体的に何か？どうい

(喜多次長) 暗いとか、今出ていたようなことがやはりアンケートで多く出ています。

( 森 ) 観光地でそれは本当によろしくないですね。最近、家庭のトイレ環境が良くなってきているので、それこそ至れり尽くせりなトイレが多いじゃないですか。その中でいくと、それを普段使っている人たちが観光地だからと言って我慢して全然そうじゃない旧式なトイレ使うかといったら、もう逆にいま寺社仏閣の方々がきれいに使ってらっしゃる。公共のトイレが一番遅れてますよねそういう意味では、和式洋式対応であるという。駅とかもすごくきれいになっているので、ちょっとさっき見えていてトイレがこんなにできていなかったかなあとすごく印象的でこれはそのリピーター率を上げる時には非常に重要だなあと受け止めます。ということで、ちょっと時間がないので、すいませんけどちょっとまたこれあのですね、28年度は一応この形でまた続けてやらせていただくんですけど、28、29という風に全く変えられないわけではなくて具体的事業を追加する必要がある、例えばこの放ち鵜飼の時もそうだったんですけど、追加することが

できるので、すこし考えていただいてご意見があれば事務局にさせていただくというところでお願いしたいと思います。すいません時間がないので観光動向調査について少し説明をしていただけますでしょうか？前回の物とそれからその説明が、お願いします。

(事務局) <観光動向調査についての説明> (残り 23:53)

( 森 ) はい、この項目については多分皆さんのお手元にあげられている報告書の目次のところにですねどういう調査をしたかということの大きな枠組みが書かれていますね。細かい内容についてはまたちょっと見ていただいたらいいとおもうんですけど、どうでしょうか動向調査全体の大きな案なんですけど、5年の間にすごく大きく観光の状況変わってると思いますので、調査の対象であるとか、調査の方法であるとか何かこういうことについてもっと聞くべきではないかということで、全部まとまりきらないとおもうんですけど、思いつかれたことがあったらいくつかお伺いしたいんですけど如何でしょう。大きなポイントで宿題を持ってかえってもらえる手がかりというか。

( 門 ) あの、23年ですか？24年と比べたらインバウンドというか外国人がかなりウエートがたかくなってると思うんですね、多分これにでてないんですけど、そのあたりの項目を問うようなものがあるのかなというような感じがしますね。

( 森 ) そうですね、前の時に実際のインバウンドの受け入れ対応について準備が整っているかどうかとか、体制がどうなっているかみたいなことを宇治市内の事業者さんに丸十さんとかで聞いてたりとかするんですけど、例えば宇治市内の観光動向調査で平成23年で、日本人のだいたい十分の一ぐらいサンプル数なんです外国人が、これは実態に、プロポーショナルにあってるのかどうかという、ちょっとまだ27年度のあの観光入り込み客数統計整備ができていないと思うんですけど、その数値の速報が出た段階で京都市さんみたいに毎年観光総合調査するわけには政令指定都市ではないので厳しいとおもうんですけど、ある程度わかる範囲でこのプロポーショナルでいいのかどうか、つまり日本人10に対して1がインバウンドでいいのか、国籍とか何かもう少し配慮したりしなくていいのか、とかですね、あと、ちょっとほんとにランダムサンプリングになっているんで、世代的なところとかも、この来てる人が多いのか少ないのかというのがこれでわかるのか、ちょっと無作為なので来た人にどういう形で細かく調査されたかが分からないんですけど、そのへんが前だと10代、一応だから各層2割ずつぐらい年代は設定してやってもらっているのかなあと思うんですけど、外国人の方とかだとその辺の実態どうなってるのかなあというのが分からないとか、細かいことみると結構あるんですね、ちょっとそれ見ていただいて是非出していただきたいと思います。というのはこれから観光の動向調査については私たちが手弁当とするわけにはいかないなので、調査会社とかを入れてやってもらわないと思うんですね、なので今仕様書を作るというイメージです。こういうこと、こういうこと

こういうことを調べてください。あるいは逆にこういうことは調べてほしいと思っているけど、その上でもっとこんなこと調べていい、というプロップを出してくれるんだったらその書き方にしてもらおうという、ちゃんと使えるデータを出してもらわないといけないんで、そのためにはここでしっかりと意見を言ってもらったらいかなと思っています。

(神居) 23年と今回とのインバウンドの問題もそうですし、修理が終わってるか終わってないかも違いますし、パイも違う、目的も違うという中で、前回のデータもそうですが観光で本当に満足度という項目もこれでいいのか、というのはなぜかという京都もそうなんですけども宇治の観光というのは宇治だけ来てというんじゃないで、宇治と例えば京都のどこかとか、奈良のどこかそういう観光地です。京都もそうです今回の旅行は目的を持って来て広隆寺と金閣寺とか、そういったことでそういった大きなベースの中で、旅行の中で本当に一番良かったのはどこですか？宇治に来て京都に来た人、京都に来て宇治を訪れた人のグロスの中で本当に宇治観光の満足度が高かったのかどうかという視点がないんです、どこにも。ようするに宇治の中で宇治の観光に対してどこが一番良かったですかという聞き方かなんで、そうしたらこういったことしか出てこない訳で、本当に今回の旅行の中でやっぱり金閣寺もみたけど、平等院も良かったよとか、宇治上さん良かったよとかそういったことが引き出せると一番いいかなという風に思います。旅行の中で何が一番良かったのか、何が足りなかったのか、きやすかったのかとか、

(森) 何かその辺が量的調査でも一定カバーできると思うんですけど、ある程度質的調査とかチューニングをかけてもらうような調査というのが手間がかかるんですけど、ある程度必要で例えば宇治に対するご意見をお聞きしますと、前の調査票を見ていただくと分かるんですけど、宇治にどんな施設やイベントがあれば来てみたいと思いますとか、どんな情報を発信してもらいたいですか？その期待についてのヒアリングはまあご意見自由記述みたいな形であるんですけど、来てどうだったか？ということを知る項目は確かにないんですね。でもそれを聞かないと、また来たいとか、どこが満足しましたか、というのはあるんですけど、でも、何を反省すべきかということ、やっぱり知らないといけなくて、私も観光事業主じゃなくて観光当事者ではなくて、このように関わらせていただいていると、やっぱり例えばトイレの話ですけど、市民としてもやっぱりこれはないよなと思う所は観光客の人もこれはないよなと思ってるということなんですよね、でもそれは市民だと言えなかったり、言っても聞いてもらえなかったりとかするわけです。でも外の人に来てお客さんがこれはないよねって言えば、やっぱりやっとなら耳を傾けるみたいな所もあって、特に観光事業者さんはそういう方たちをお相手に商売されているので、申し訳ないけどそういう人に言われないと分からない観光事業者もいらっしゃるんじゃないかと思うんですよね、そう意味で

は観光動向調査というのは厳しいご意見を如何に率直に忌憚なくお伺いできるかという視点が必要で、京都市さんとかだと経年変化を見たいというのが行政調査の主たるものなので、結構、「感動することはありましたか？」とかそれぐらいは入っています。でも、あんまりそのなんていうか、

(神 居) たとえば今回の旅行の目的は？とか、次どこ行きますか？とかそういったことが入ってますよね、

( 森 ) だから、その辺が特に印象に残ったのは何かとか、スモールスケールだとけっこう聞けるんですね。私たちが修学旅行受け入れしていて、とか利き茶めぐりとかもお世話になっていて、特に印象に残ったお店はどこですか？その理由は何ですか？っていうと接客なんですけど、接客、ここですごく丁寧に説明をしてもらってよかったとか、でもそれがデータ化されることが重要なんです。だからやはり質の向上を図る意味でも、動向だけを知るだけでなく、そういう意識を変えていただくためにも必要なもので、そのおもてなしの満足度とか来訪者の満足度とか具体的に聞けるような項目を足すということですね。それで最初の門さんが言っていたインバウンドのところは当然です、あと何かありますか？

(北村会長) これ森先生、委員長、これ一回資料の端のところでやろかなって思ったんですけど、時間が相当かかりますね、これアンケート<そうなんです>これねえなんぼくらいかかるんですか最後まで、これアンケート一人の方が、全部の質問に答えられるの。調査会社なさってますけど、たくさんあるからいいもの作れる

( 森 ) いいわけではないんです。これね全部の観光客向け外国人向けで分けてるんですよ。これ4ページものなんです。交通調査でやった時あれ何ページでしたっけ？2ページ。2ページでだいたい5分くらいですね。でもね調査員の能力にもよるんで、つまり、これをいちいち全部質問して聞いてたらだめで、会話をするように「どこから来まりましたか？」「何で来はりましたか？」っという項目をいれつつストーリーで結果的にはアンケートを聞いているという風になれば早く終わります。でも、そうなんですよ。だからこれは本当に調査員の能力次第というか「どこに行きましたか？」っという、いちいちここですかどこですか聞くんじゃないで、どこ行ったんですね、ここですねってこっちで記入していく、アンケートってちょっとそういうところなので、その辺が<魅力的なプレゼントを用意しておくとか>あーどうなんですかね、ウッティのステッカーを交通調査の時は、安全のために王子ちゃまのステッカーの入ったティッシュを配りました。あれ結構キャラの宣伝も兼ねて結構喜んではりました。<僕も欲しい>交通政策の職員が手で作らしたんです。時間がかかりすぎてもね、大変なんでね。これグループフォーカスインタビューとかしないんですね。グループで集まっていたいてするとかはなかったですか？個別アンケートですね。なのでインターネットの調査とかで少し幅の広い所を聞けるので、ちょっとまた動向が変わってくると思うんですけど、インターネットは抽出の母集団を結構うまくコントロー

ルできるので。商店街から何か聞きたいことありませんか？

(佐脇) インバウンドの話で最近宇治に宿泊されてる方、外国人の方けっこういらっしゃるんですよ。花やしきさん、第一ホテルさんじゃなくていわゆる airbnb、僕が確認してるだけで4軒あるんですね。でそういう所にどういう目的でどれぐらい滞在されてるか、そういう風なことが分かったらいいのかなという風には思いますね。

( 森 ) 民泊に関する調査をどう入れられるかですね。

(佐脇委員) 最近知らんところで民泊やってはったりするんで。

( 森 ) いや、それは行政的にはむしろちゃんと把握しておかな、いかんじゃないですか。

(佐脇委員) 森先生のすぐ裏でやったはるやないですか。

( 森 > あれけっこう問題になってます。

(佐脇委員) ですよ、僕あれ知らんから<あれやばいですよ>案内したはるんですよ外国人を。<だれも知らないです>だれも知らないでしょ。それはちょっと把握しておかんと具合わるいなあと。

( 森 ) ああゆう事例が実際に起きてきているので、それも地元の人ではないんですよ。なので、さっきちょっと別のこと打ち合わせて住宅マスタープランと関係ありますけど、空き家を安く買い取ってそれをネットで紹介している。

(佐脇委員) 分かりにくい所なので、商店街の店に聞きに来られるんです。うちに来はるんですこないだかって立て続けに外国人来てはって

( 森 ) そんなところありませんって言ってもらったらいいぐらいで、<笑い>

(佐脇委員) すごく困ってこられるので、あれはちょっと把握しておかんと

( 森 ) 例えばの話、どんどんそういうのが増えてくるんですね。だから大きなところでの議論ではホテルを作れとかそういうことをおっしゃってる方が大きな声でたくさんいらっしゃるんですけど、でも資本投資とか経済状況を考えた時にはほとんどがリアリティがない話なんですよ、回収できる見込みがないから出てこない、ずっと商店街にファストフード店が永遠出来なかったのもコンビニが出店しないのも、調べてもペイしない、つまり週末だけで食べてるエリアにそういうものを作っては回収できないというのは、ビジネスの論理として分かってるので、ただ民泊というのは最適解だというのは多分 はいはい京都がオーバーフローしてて桜のシーズンとかビジネスホテルで3、4万しますよね、京都市内むちゃくちゃです。そしたらみんなそれを聞いたら「うち空いてるし貸すわ」となるわけですよ、そういうとこまでどこまで入るのかという実態調査として動向調査というところだけでなく、実態調査としてどういう風に考えるのか？というのが、この中にもう一つないのは、先ほどの交通政策もあれなんですけど地元の人はどう思ってるのかということとどこでどう押さえていくのかというのが、実はけっこう重要やなと思っていて、難しいんですけどつまりこういう形の実態調査

でやれるのか、例えばおもてなしの市民文化をもう少し盛り上げていこうとする時に、地元の人はこう今動いていることについてどう考えてらっしゃるのか？というのが、なんかもうちょっとほんとは聞けないと、これからの宇治として何をしていけばいいのかとか、実はほんとは18万人いる宇治の市民が最大の顧客のはずなんで、一番近くにいる。その人たちがやっぱり何にも評価してなかったらですね、でやっぱり京阪神、ほんとに遠くもそうなんですけど、そういうところを大事にしていかないと。ちょっとどう考えるかですね。他は如何ですか？大丈夫ですか。大丈夫じゃないとおもうんですけど。今ちょっと頭パンクしてると思うので、あの、時間もパンクしてますので、そろそろ終わりたいと思ってるんですけど。ちょっとこれ今週中じゃないとだめないんですかね、皆さんでも忘れるから今週中にしたんですかね締切、FAX。どうせ持って帰っても時間があっても忘れる、＜一週間目処にお願いできれば＞なるほど今日月曜日なので来週の週明けぐらいまでに、皆さんお忙しいでしょうし、いくつかこんなことを項目で質問してくれという分からなくても、こんなことについて知りたい、そうしたらこういうしたらこういうことが分かると思うのがプロなので、なのでこんなこと知りたいなあ、いまの民泊の実態を知りたいなあ、まあ飲食弱いと言われてるんで、飲食についてどう考えてるか、一応飲食は若干入ってますけど、その辺はまた、観光協会でもたぶんとたくさんあると思うので出して頂いて、よろしいでしょうか。もうすごく時間切れなんですけども、一応次第はここまでなんですけど、大丈夫でしょうか何かせつかくなんて言うておきたいことありますか。ありますか、その他

(古賀委員) JRから平等院ぐらいまでの動線で迷っておられる方は非常にいるんで、JRで来られた方は平等院まで、目的が平等院だった場合すぐに分かりましたか、というのを、動線が非常に標識が悪いという話をお客さんから実際聞きますんで、

( 森 ) なんか標識なのかグーグルの表示が平安の町並みにマッチしないのか、＜あれ見ながら迷ったはるんです＞あれ迷うんですよ、というのは近くに行くと案内やめるというのがナビの、大きな道大きな道に行くので、やっぱり平安の道の幅というか、経路がいっぱいあって同時到着が複数提示されているので、だんだん分からなくなるんですね。一番平等院さんがチラシ作ってJRの宇治駅に置いてもらったような、平等院の行き方、行き方だけを示す地図を出すのはいいんですけど、でもそうなるとうちの立ち寄り場所はほかしてもいい表参道にいるからそれを言っても許されるんですけど、途中の道はどうなるんだ、という話もあるんです。だから逆に＜迷わすという＞そうだから迷ってもらっても楽しんで欲しいということとか、迷っていても近所の人が声をかけてくれて「どこ行かはるんですか？」とか「平等院ですか、だったらこっちですよ」と一こえ声をかけるとか、たぶん本当はそういう方がクオリティは高いことなんですよ、迷わず行くことがいいということは決してない。うん、そこは発想の転換、それは表参道的な発想

やと思うんです。平等院に行きたかったけど迷った、でもそれは途中はなんやっ  
たさっきの周遊の話になって。

(池本委員) 京阪から平等院に行く道はまず渡ってくれて言うじゃないですか、宇治橋  
渡って、

( 森 ) いやいやあの赤い橋の方がいいですよっていわないといけません、ほんとは。  
いやそうです、そういうことですよ。「あの赤い橋を渡ったら風気持ちいいで  
すよ」とかそういう案内をしないとイケないんですよ。そこはよーくもめてくだ  
さい。ようするにつまりだから三商店街のある意味利害がもしかして対立する部  
分かもしれないですね。＜うちは迷ってもらった方がいい＞いやそうやからね、

(古賀委員) それぞれが説明を受けたらまちまちになる

( 森 ) だから、そういう、今の貴重なご意見でここでそれを聞いているからそれがクレ  
ームに聞こえるんだけど、実はそれは別の周遊の可能性を提示しているかもしれ  
ないので、なので、みんなが集まってお茶町ぐるぐる巡りの監修をしてもらった  
らいいと、そういうことだと思います。でもね、サイン計画にもそういう話が出  
て、意図的に迷ってもらう、迷うというのはネガティブではなくて、平安の道っ  
てさっき言ったんですけど、この道入った瞬間に平安の時代にちょっとタイムス  
リップできるっていう、そのストーリー的な仕掛けみたいなことが足りないです  
ね、なのでただ迷ったらネガティブな経験になってしまう。「あそこ通ってきた  
んかそれよかったですね」と言えないと＜ポジティブです＞そうですよ、でもそ  
れポジティブな言語に出会った人が変換しないとネガティブな思い出は持って  
帰えらるから「は、そうか迷う道なんや」ということですね。それで、でもそ  
ういう意味の変換とかがあって初めて新しい観光価値が創造されるので、よろし  
くお願いします。ということで事務局に返したいと思います。事務局の人一番そ  
こ頭を揉んで考えていただければ、はい、どうぞ。

(事務局) <資料についての追加説明と閉会の挨拶>



